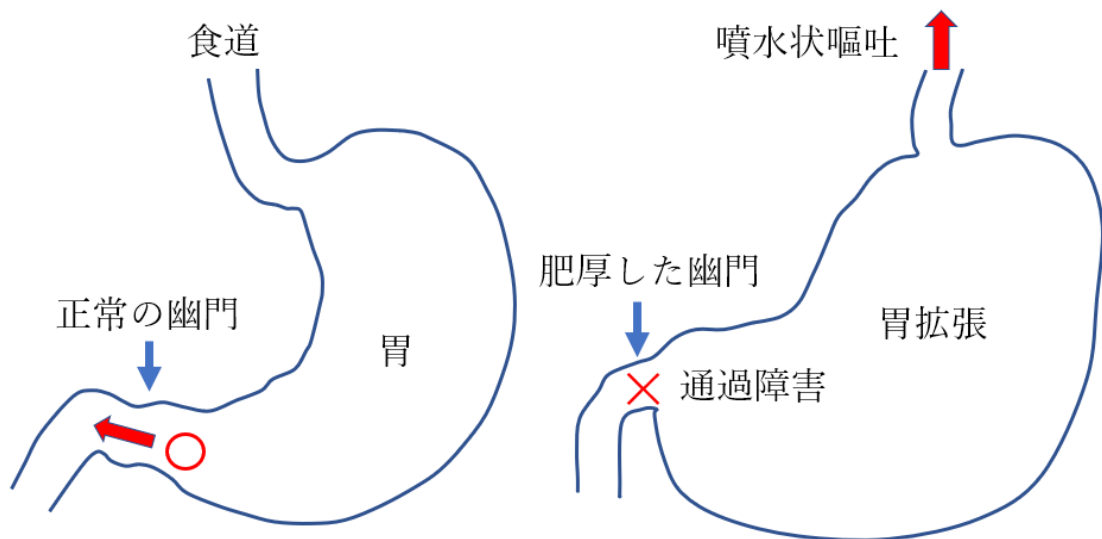


肥厚性幽門狭窄症（薬で治す）

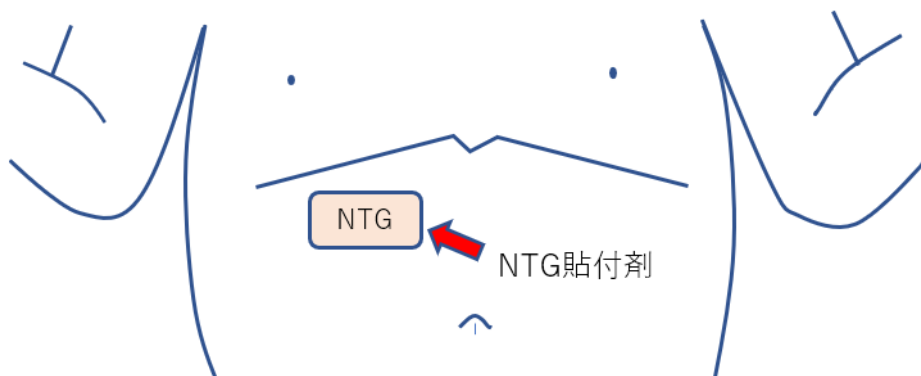
【概要】

生後数週間～2か月頃の赤ちゃんが、胃の出口（幽門）が狭くなるのが原因で、嘔吐を繰り返す病気です。活気はあって良く飲むのですが、哺乳の度に飲んだ分だけ勢い良く吐いてしまい（噴水状嘔吐：下図右）、体重が増えなくなります。男の子に多い病気です。腹部エコーやレントゲン検査で診断します。



【治療法】

- ① 手術療法 手術で幽門部を外側から切開して広げるものです。比較的簡単な手術で、手術翌日から哺乳出来るようになるので、通常は手術を勧める病院が多いのが現状です。ただし、全身麻酔や術後合併症のリスクは負うことになりますし、お腹に手術跡が残ることもあるでしょう。
- ② 内科的療法 手術ではなく、薬で治す方法です。従来の〈硫酸アトロピン単独療法〉では、嘔吐が治まるまでに時間を要するため待てず、結局手術になってしまうお子さんが少なくありませんでしたが、幽門筋弛緩作用のあるニトログリセリン（NTG）貼付剤を併用した「名木田法」が以下の様に良好な成績を取っております。



硫酸アトロピン単独療法と NTG 貼付剤併用療法との比較 (*参考文献 1・2)

	嘔吐消失までの期間	入院期間	結果
硫アトのみ (*1)	平均 7 日	平均 13 日間	45/52 例治癒
硫アト+NTG 貼付剤(*2)	平均 0.9±0.8 日	平均 5.6±0.9 日間	8/8 例治癒

当院での成績

	嘔吐消失までの期間	入院期間	結果
硫アト+NTG 貼付剤	平均 1.7±1.7 日	平均 9.4±2.0 日間	6/7 例治癒

【実際の治療方法】

硫酸アトロピン 0.1mg/kg/day を各哺乳 10 分前に 3 分以上かけて静注する。それに並行して、NTG 貼付剤を 1 回 1/2 枚、鋏で切って右季肋部あるいは幽門部後壁に貼付する (図)。12 時間毎か貼付力が消失したときにテープを張り替える。2 日間使用しても効果が認められないときは、1/4 枚ずつ 2 日ごとに増量、2 枚/日が最高投与量とする。治療中は心肺モニターを装着し、脈拍数などを監視する。嘔吐が治まって 24 時間経過したら、点滴は中止して硫酸アトロピンを哺乳 30 分前の内服薬へ変更、NTG 貼付剤は数日で中止し、再発無ければ退院とする。硫酸アトロピンの内服は数週間掛けて漸減する。

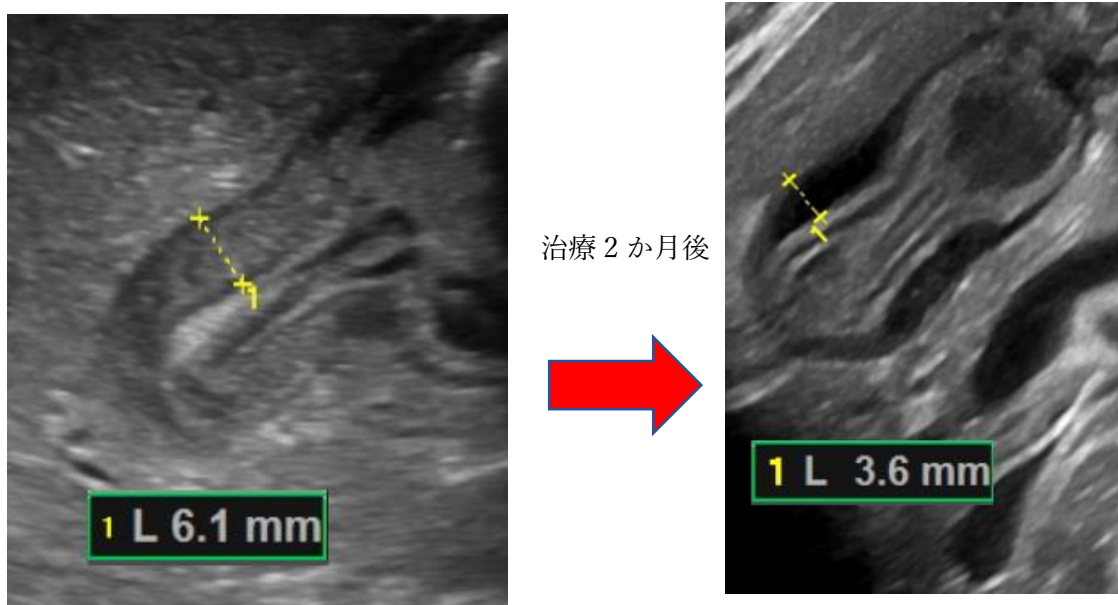
【Q&A】

Q：なぜ薬で筋肉の肥厚が良くなるのですか？

A：通過障害は異常な筋肉の攣縮（けいれんのようにずっと収縮している）が原因です。その状態を薬で緩和することで、ゆっくりと（数ヶ月単位）通常の筋肉に戻っていきます。

Q：手術をしなくても根本的な治療になるのでしょうか？

はい、肥厚して見えた幽門は徐々に薄くなり普通の状態になります。



〈自験例：上図〉生後2か月男児、頻回嘔吐（血液混じり）で受診。エコーにて幽門筋肥厚6.1mmあり（正常<4mm）。入院し、硫酸アトロピン静注+NTG貼付療法にて徐々に嘔吐消失。13日間で退院、その後の再発は無し、2か月後のエコー検査では幽門筋3.6mmで正常範囲。

Q：ニトログリセリン貼付剤の安全性は？

A：元々血管拡張剤として使用されることの多いニトログリセリンは、肺高血圧症や心不全のお子さんに対し、新生児期から吸入や持続点滴で使用されますが、とても安全性の高い薬でほとんど副作用の報告はありません。貼付剤は点滴に比べると薬の吸収が緩やかで、その後持続します。

Q：再発はありますか？

A：退院後すぐに内服を中断し再発した例があります。大抵内服を再開すれば治まります。内服は数週間かけて徐々に中止していきます。

Q：良くならないときはどうなりますか？

A：5～7日以上経過しても全く効果が見られないときは、手術の相談（現状では他院紹介）させていただきます。

Q：今入院している病院ではやっていないと言われました

A：安全で有効性の高い治療なのですが、ある程度の根気と熱意が必要なため、当院以外で施行している病院は少ないです。試されたい方は当院小児科に電話で相談してください。

【参考文献】

1. Medical treatment of infantile hypertrophic pyloric stenosis: should we always slice the “olive”? Kawahara H et al. : J Pediatr Surg 40 : 1848-1851, 2005
2. 「肥厚性幽門狭窄症に対するニトログリセリン経皮投与を併用した硫酸アトロピン静注療法」：名木田章ら、日本小児科学会雑誌、110巻9号、1271-1273、2006